「霊的な成熟を目ざして」ヘブル５：１１－１４　　１８・７・２９

Ⅰ　霊的成熟を邪魔するもの。：１１－１３

前の文脈とのつながり。

１０節に続いて著者は、「キリストという大祭司」について素晴らしい事を多く語りたいのだが、読者達が、まだそれを聞き取る状態にないので、５：１１－６：２０まで警告を挿入する。

Ａ．１．：１１→「あなたがたが、聞くことに対して鈍くなっているからです」。

６：１２の「怠け者」の「怠ける」と同じ原語。

福音の真理に対する飢え渇きと情熱を失ってしまっていた。

私達も、主に祈り、頼りつつ、この怠惰や無精に気を付けたい。

２．：１２→「神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります」。

主の喜ばれる成長を目ざそうとしない。

人間的には楽かもしれないが、そこに進歩がなく、主を信じている事の喜び、真の満足も味わえない。

３．現代の成長をはばむもの＝忙しさ。

神との交わりの乏しさ。主にある互いの交わりの乏しさ。

知らず知らずのうちに、世の価値観、物質主義、目に見えるものがすべてという間違い、主の御心を求めない事なかれ主義、もうけ主義、主の正義ではなく、損得で動く等に流され、神のみことばへの聖なる渇き、聖なる熱心を失う。この点で、互いに祈り合いたい！

Ｂ．上記の１－３の結果

１．：１１→もっと深い恵みを受ける御言葉の教えを説き明かす事が困難となる。

つまり、御言葉を聞いても、心と生活に結びつかない、生かされない。

２．信仰の「年数からすれば教師（他の人に御言葉の恵みを教え、分かち合う人）になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります」：１２。

３．「固い（初歩ではなく、もっと深い真理、信仰生活の戦いの確信に迫る教え）食物ではなく、乳（初歩のままの教え）」を必要としている。

普通、一歩一歩、成長して行く時、初歩の教え、乳では満足できなくなるものである。

４．「義（意志、思い、行為の面で、神のみこころと合致する正しさ、神との正しい関係、神の喜ばれる正しい道）の教えに通じてはいません（経験不足、未熟である、学びも不足し、学んだ事の実践も不足なので、御言葉が、身に着かない、実を結ぶ為の霊的な栄養とならない）」：１３。

５．「幼子（おさなご）なのです」：１３。

霊的な幼子の特徴＝①わがまま、自分勝手、自己中心、他の人への配慮ができない。

②物の考え方が、浅く、狭い。目先の事、外側だけで判断し易い。

「考え方において子どもになってはいけません。悪事においては幼子でありなさい。けれども、考え方においては大人（一面だけを見るのではなく、色々な角度から考え、一つ一つの出来事を結び合せ、考え、神の御心に近づく）になりなさい」（Ⅰコリント１４：２０）。

Ⅱ　霊的成熟への道

１．聖書の教える成熟した人、大人とは＝

①「善（神の目に正しい事）と悪（神が嫌われる罪、不正、神が喜ばれない事）を見分ける感覚（道徳的判断力、識別力、ピリピ１：９）を経験（習練の結果得た熟練）によって訓練（鍛錬、Ⅰテモテ４：７、ヘブル１２：１１）された大人」：１４。

②世の価値基準で物事を判断せず、御言葉と神のみこころ（色々な事を結び合せて益として下さる神の御心を祈り求めて、判断して行く人（ローマ１２：１、ピリピ１：９－１０）。

③「幼子」と反対の人＝自分勝手ではなく、周りの人々の事を考え、配慮できる人。

④物の考え方が深く、広い。今さえ良ければではなく、先の事も考え、うわべではなく、内面も見られる人。踏み出すべき時と引き返すべき時を見分ける人。

２．霊的成熟への道（個人と同時に教会全体も）

①御言葉に対して鈍い耳ではなく、良く聞く耳、開かれた心で聞き従う（ヤコブ１：２２，２３）。

②初歩の状態に自己満足せず、絶えず、イエス様の姿への成長を目ざし祈る。ピリピ３：１２－１４。

③せわしく、表面的には魅力あるように映るプログラムの多い今の世にあって、世の価値観に流されないように祈る。

そして、礼拝や学び、分かち合い、ディボーション（神との交わり）の時間を最高の喜びとし、しっかりと継続して行く。

継続は力、成長へと導く。

主にあるクリスチャンの交わり、集まりは、互いに励まし合い、強め合い、世の誘惑の攻撃から互いを聖め守る。

「自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日（主の日）が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか」ヘブル１０：２５。

④：１４→ただ、年を取れば成長するとは限らない。主と共に歩む日々、主にある経験・体験、主にある試練・訓練が私達を主の姿に成熟させる。

その主にある訓練の最中は、人の目には、失敗、無力、マイナス、後退に見える事がある。

しかし、そこで失望してはならない。その辛い苦しみ、試練、踏み出す、祈りつつ引き返す勇気こそ、私達を成長させ、後に、その人に、平安な義の実（イエス様の姿への成長）を結ばせる。ヘブル１２：１１。

「すべてのことには定まった時期があり、…神のなさることは、すべて時にかなって美しい」
伝道者の書３：１、１１。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された（神の先行する選びにより、救いに呼ばれた）人たちのためには、すべてのこと（苦しみ、後退にさえ思える事も）がともに働いて益（神の御業の前進、私達の主の姿への成熟）となることを、私たちは知っています」ローマ８：２８。

⑤何年経っても、いつも原点の十字架の愛（一方的、無条件の神の愛）を忘れてはならない。

「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです」　Ⅰヨハネ４：１９